



『**ぼくらは森で生まれかわった**』
 おおぎやなぎちか／作 宮尾和孝／絵 あかね書房 2021
 夏休み、河童が棲むといわれる森で、真は見知らぬ男の子と出会います。彼の名前は順矢。真と同じ年で、東京からやってきました。仲よしの二人ですが、真のうそと順矢の秘密で関係にひびが入ります。真はだまって去った順矢に会おうと、東京へ向かいます。



『**宇宙マグロのすしを食べる 魔法の水「好適環境水」誕生物語**』
 山本俊政／著 旬報社 2021
 淡水とも海水とも異なる好適環境水の開発ストーリーや、それを使った様々な実験研究について書かれています。失敗や苦労があるからこそ成功につながるということを教えてくださいます。宇宙で育てた魚を食べられる日もそう遠くはないかもしれません。



『**正吉とヤギ**』
 塩野米松／文 矢吹申彦／絵 福音館書店 2021
 小さな南の島で暮らす6歳の正吉の家に、生まれて間もない元気な子ヤギがやってきました。大喜びの正吉は、子ヤギを大切に育てます。そんなのんびりした暮らしに、戦争の影がしのびよってきました。少年とヤギの、あたたかくも悲しいおはなしです。



『**聞かせて、おじいちゃん 原爆の語り部・森政忠雄さんの決意**』
 横田明子／著 山田朗／監修 国土社 2021
 本当はもう話したくなかった原爆の経験。孫にお願いされて話したことをきっかけに、おじいちゃんは仲間とともに『語り部』として活動をはじめました。恐ろしくて悲しい原爆の記憶ですが、おじいちゃんは平和な未来のために戦争の記憶を語ります。



『**ここではない、どこか遠くへ**』
 本田有明／作 みなはむ／絵 小峰書店 2021
 複雑な家庭環境で育ち、名字に動物の名前が入っている四人組の「アニマルズ」。彼らは、自分たちが本当に行きたいところへ行こうと、夏休みに遠い旅を計画して出発します。果たして、全員の望む目的地にたどり着くことができるのでしょうか。



ドキドキわくわく夏休み。

旅行してみたいけれど、まだちょっと心配。

そんなあなたへ、おすすめの1冊を紹介します。

この夏は、本を通して、思い出作りの旅を

楽しんでみませんか！

2022

このブックリストは、出版社の許可を得て、表紙を掲載しております。2022年7月
 発行：宮崎県立図書館こどもしつ 電話(0985)29-2596



『ようかいじいちゃんあらわる』

最上一平／作 種村有希子／絵 新日本出版社 2021

すみれちゃんは、夏休みに、ひとりでばあちゃんの家にとまることになりました。ばあちゃんはようかいばあちゃん、死んだじいちゃんはようかいじいちゃん。家の中をみまわすと、黒い人ががゆっくりと通りました。お盆の不思議で楽しいおはなしです。



『おかえり、ウミガメ』

高久至／写真・文 アリス館 2021

屋久島は、日本でいちばん多くのウミガメが産卵にやってきます。そこで生まれたウミガメの赤ちゃんは、太平洋を旅して20年後ぐらいに、生まれた海岸に、また帰ってきます。この本は、ウミガメが安心して暮らせる海を守ることを、教えてください。



『かずさんの手』

佐和みずえ／作 かわいちひろ／絵 小峰書店 2021

かずさんは、みかのひいおばあちゃん。かずさんがみかに話してくれたのは、看護師としてはたらいていた昔のこと。それは、長崎に原子爆弾が落とされた1945年の夏のことで。被ばくのけがで苦しむ患者さんの手を、かずさんはやさしくにぎります。



『うたうラップ貝がら』

如月かずさ／作 コマツシンヤ／絵 偕成社 2021

ミッチは、すなはまで、ラップのような形をした貝がらをひろいました。そのよる、とてもきれいな女の子のうたごえが、きこえてきたのです。そのうたごえは、ラップ貝の中からきこえてきます。どんな人がうたっているのか、ミッチは知りたくなりました。



『ひかる石のおはなし』

小手鞠い／作 酒井以／絵 あかね書房 2021

小学生の楓くんは、学校からの帰り道、ひかる石を見つけました。悲しい経験から、言葉が話せなくなっていた楓くん。そのふしぎな石は、楓くんのいちばんの友達になりました。「この石はもしかしたら…」ある時、お父さんが楓くんにふしぎな話をはじめます。



『四年ザシキワラシ組〔2〕』

こうだゆうこ／作 田中六大／絵 学研プラス 2021

風太くんのモットーは「平和が一番」。そんな風太くんの教室には、クラスみんなにしか見えないザシキワラシがいます。そのせいで、次々と事件が起きるのです。そんな中、ともだちの青山君と、この夏は一緒に泳げるようになるという目標をたてました。



『おしゃべり森のものがたり』

小手鞠い／作 長田恵子／絵 フレーベル館 2021

楽しみにしていた夏休みのアメリカ旅行なのに、お母さんと離れて暮らすことになった舞ちゃんの心には、冷たい風がふいていました。でも、いろいろな人たちと話をしたり、森で動物たちとふれあったりして、舞ちゃんの心は少しずつあたたかくなりました。



『青空モーオー! 牧場ですごした七日間』

堀米薫／作 pon-marsh／絵 学研プラス 2021

陸は、いじめられている友達を助けられなかった後悔のまま、夏休みに入りました。そんな時、いとこに誘われ、夏休みを牧場で過ごすことになりました。自然と牛たち、あたたかい人たちと暮らすうちに、陸は、勇気をもらい、たくましく成長していきます。



『ちいさな虫のおくりもの アリスの心とファールルの目』

谷本雄治／文・写真 文研出版 2021

虫を飼育・観察すると、人間にはない能力を知ることができ役立つことを教えてください。自然や命、環境についても考えさせられます。アリスのように「不思議に思う心」をもち、じっくり観察する「ファールルの目」をもつことが大事です。



『ベサニーと屋根裏の秘密』

ジャック・メギット・フィリップス／著 イザベル・フォラス／絵 橋本恵／訳 静山社 2021

エベニーザーは、511歳。屋根裏にいるビーストに食べ物を運ぶかわりに不老薬をもらっているのです。ところがビーストが人間の子供を食いたいと言い出し、見つけたのはいたずら好きのベサニー。さてベサニーは食べられてしまうのでしょうか。